

No. 1548

緑のまちを

— 東 京 —

3月は緑化強調月間のスタートの月です。

日比谷公園を始め都内9会場で苗木の即売会が開られています。市価より安いとあってどこの会場もにぎわっているようです。

練馬区では23区のトップを切って、区民に緑の大切さと緑ゆたかなまちづくりにと、光が丘団地の公園内に「花と緑の相談所」を4月からオープンしようと、最後の仕上げに入っています。

総工費約1億9千万円をかけた相談所は展示室、講習室、図書室とともに園芸に詳しい専門相談員が2人常駐して、花と緑に関する問い合わせを引きうけるとのこと。

この相談所が緑化推進の核として、区民に大いに活用して欲しいものです。

和紙のふる里

— 埼 玉 —

埼玉県立近代美術館で「文人の書」展が開られました。

良寛、芥川龍之助、富岡鉄斎など墨と和紙で表現された書から作家の個性が伝わってくるようです。

この和紙の良さを広く一般の人に伝えたいと和紙のふる里、埼玉県比企郡小川町の吉野辰五郎さんが私財を投じて、昭和58年に地元に造ったのが「小川和紙資料館」。

館内には絵草紙、大福帳、地図など生活に深くつながった品物1500展が展示されています。

戦前は800軒もあった小川町のすき家も機械紙におされて今は20軒余り。

しかし手すき和紙の良さが見直され、小川町でつくる「細川紙」は昭和53年に重要無形文化財に認められました。

「洋紙の命はおよそ100年、和紙は虫食いにさえ注意すれば数百年でももつ」と吉野さん。

日本の伝統ある手すき和紙を大切にしたいものです。